

能

『難波』

にまつわる「わがまち」再発見!

世阿弥が書いた能『難波』の詞章に「咲くやこの花冬ごもり」という言葉があります。雅楽曲『春鶯囀』『万歳楽』『秋風楽』『青海波』という言葉も登場し、「難波宮」があった当時の地形や春の景色などを彷彿とさせます。

日本の三大伝統芸能の一つである能楽の謡曲『難波』を通じて、中央区のまちの魅力を再発見し、まちへの愛着を深めましょう。



邯鄲男



鼻瘤悪尉

と き：令和2年**9月22日**（火・祝）

10:30～12:00（10:00開場）

と ころ：J:COM 中央区民センターホール
（中央区久太郎町1-2-27）

参加費：無料（事前応募制）
※応募方法は裏面をご覧ください

対象・定員：中学生以上 30名

申込締切：**8月31日**（月）必着

※応募者多数の場合は、中央区内在住・在勤（在学）者を優先して抽選のうえ、返信ハガキにて9月11日までに返送します。

大阪市中央区と能『難波』

大阪市中央区にはかつて日本古代の都・難波宮があり、古代大坂湾に存在した難波津は国際港として大陸と交流がありました。難波津（なにわつ、旧：なにはつ）は港湾施設の名称であり、王仁（わに・大陸から来た渡来人）は「難波津に咲くやこの花冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」（古今和歌集）と詠みました。この和歌が能『難波』の典拠となっており、現在の大阪市歌にも「なにわの春」「咲くやこの花」という言葉が詠み込まれています。